

海田の歴史と文化を訪ねて ③

千葉家旧蔵資料は語る

生涯学習課 ☎ 8 2 3 - 9 2 1 7 FAX 8 2 3 - 9 2 5 6

家紋は、その家のルーツを表すものとして、各家で大切に受け継がれているものです。千葉家についても例外ではありません。屋根の妻飾りを始め、蔵や軒瓦、座敷棟内の欄間に至るまで家紋があしらわれています。千葉家の家紋「月星紋」は、千葉一族の代表的な定紋であり、北極星または北斗七星を神格化した「妙見神」を表すとされています。千葉家庭園奥にも、妙見神が祀られています。



▲朱塗月星紋引盃

また、遊戯道具で特筆すべきものとして、「三面揃」があります。囲碁・将棋・盤雙六は三盤といわれますが、かつては嫁入り道具の一つとされ、雛飾りなどに名残がみられます。



▲月星紋入札入れ、携帯用箸

にも、家紋入りのものが多く伝わっており、珍しいものでは、「家紋入り携帯用箸」があります。古来日本では、箸や食器類は使用者が決まっていることが多かったため、こうした携帯用箸が使用されていたのでしょう。



▲三面揃

この三面揃は、三盤を一つの箱に収まるよう作られたもので、その大きさから携帯用と思われるが、小さいながらも細部にわたり精巧な細工が施されています。これらを携え、風雅な遊山にでかけることもあったのでしょうか。次回からは、五回にわたって、江戸の風雅を体現する書画類について紹介します。

